

平成30年度

企業局第3次経営計画の進捗状況

《 工業用水道事業 》

令和元年9月4日

経営計画委員会

目 次

第3次経営計画に掲げる経営管理指標の評価一覧（工業用水道事業）	1
山口県企業局第3次経営計画の実施状況（工業用水道事業）	2
＜目標管理カード＞	
（工水①） 安定した純利益の確保	3
（工水②） 経費支出の効率化	5
（工水③） 企業債残高の縮減	7
（工水④） 新たな需要開拓	9
（工水⑤） 工業用水の安定供給	11
（工水⑥） 危機管理体制の確保（老朽化・耐震化対策）	13
（工水⑦） 危機管理体制の確保（緊急時対応力の向上）	15

第3次経営計画に掲げる経営管理指標の評価一覧（工業用水道事業）

● 工業用水道事業 6項目（評価数7）

経営管理指標	取組事項	評価結果					
		H25	H26	H27	H28	H29	H30
安定した純利益の確保	◇低廉な料金の維持とコスト削減	A	A	A	A	B	C
経費支出の効率化	◇計画的な投資と効率的な事業実施	B	B	B	C	B	B
企業債残高の縮減	◇繰上償還の実施と新規企業債の発行抑制	A	A	A	A	A	A
新たな需要開拓	◇保有水の解消 ◇受水企業間の需給調整	C	B	B	C	C	A
工業用水の安定供給	◇島田川分水事業の推進	—	—	—	B	B	B
危機管理体制の確保	◇老朽化・耐震化対策	B	B	B	A	A	A
	◇緊急時対応力の向上	B	B	B	C	B	B
A：計画を上回る		2	2	2	3	2	3
B：ほぼ計画どおり		3	4	4	1	4	3
C：計画を下回る		1	0	0	3	1	1

○ C評価となったもの

経営管理指標	取組事項	該当年度
安定した純利益の確保	◇低廉な料金の維持とコスト削減	H30
経費支出の効率化	◇計画的な投資と効率的な事業実施	H28
新たな需要開拓	◇保有水の解消 ◇受水企業間の需給調整	H25、28、29
危機管理体制の確保	◇緊急時対応力の向上	H28

○ B評価以上の割合

$$\frac{\text{B評価以上 } 33}{\text{全評価 } 39} = 85\%$$

一部C評価となった経営管理指標があるものの、全体としては計画が着実に推進

山口県企業局第3次経営計画の実施状況（工業用水道事業）

山口県企業局第3次経営計画（計画期間：平成25年度～平成30年度）に掲げる経営改善のための経営管理指標の実施状況は次のとおり

経営管理指標	内 容	実 績																																			
1 安定した純利益の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・料金制度見直しの検討 ・低廉な料金水準の維持 ・コスト削減 	<p>【純利益の確保】 (百万円、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>880</td> <td>961</td> <td>722</td> <td>952</td> <td>912</td> <td>878</td> <td>884</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1,406</td> <td>1,187</td> <td>1,061</td> <td>1,046</td> <td>928</td> <td>724</td> <td>1,059</td> </tr> <tr> <td>差(率)</td> <td>+60</td> <td>+24</td> <td>+47</td> <td>+10</td> <td>+2</td> <td>-18</td> <td>+20</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均	目標	880	961	722	952	912	878	884	実績	1,406	1,187	1,061	1,046	928	724	1,059	差(率)	+60	+24	+47	+10	+2	-18	+20			
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均																														
目標	880	961	722	952	912	878	884																														
実績	1,406	1,187	1,061	1,046	928	724	1,059																														
差(率)	+60	+24	+47	+10	+2	-18	+20																														
2 経費支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な投資に加え、新技術・新工法の導入や効率的な施工方法の採用等による工事コストの削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術の導入、施工方法の見直し等によるコスト削減 <p>【削減額】※目標5%以上 (千円、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>△71,762</td> <td>△56,771</td> <td>△72,256</td> <td>△40,265</td> <td>△98,372</td> <td>△33,832</td> <td>△62,210</td> </tr> <tr> <td>率</td> <td>△5.3</td> <td>△6.3</td> <td>△5.1</td> <td>△2.7</td> <td>△5.8</td> <td>△5.0</td> <td>△5.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均	金額	△71,762	△56,771	△72,256	△40,265	△98,372	△33,832	△62,210	率	△5.3	△6.3	△5.1	△2.7	△5.8	△5.0	△5.0											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均																														
金額	△71,762	△56,771	△72,256	△40,265	△98,372	△33,832	△62,210																														
率	△5.3	△6.3	△5.1	△2.7	△5.8	△5.0	△5.0																														
3 企業債残高の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・補償金免除繰上償還制度を活用した繰上償還の実施 ・内部留保資金を活用した新規発行の抑制 	<p>【企業債残高】 (百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目 標</td> <td>20,983</td> <td>21,399</td> <td>22,198</td> <td>18,778</td> <td>18,657</td> <td>18,536</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>19,998</td> <td>18,696</td> <td>17,852</td> <td>17,468</td> <td>17,241</td> <td>17,093</td> </tr> <tr> <td>差</td> <td>△985</td> <td>△2,703</td> <td>△4,346</td> <td>△1,310</td> <td>△1,416</td> <td>△1,443</td> </tr> <tr> <td>対 H24</td> <td>△1,639</td> <td>△2,941</td> <td>△3,785</td> <td>△4,169</td> <td>△4,396</td> <td>△4,544</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目 標	20,983	21,399	22,198	18,778	18,657	18,536	実 績	19,998	18,696	17,852	17,468	17,241	17,093	差	△985	△2,703	△4,346	△1,310	△1,416	△1,443	対 H24	△1,639	△2,941	△3,785	△4,169	△4,396	△4,544
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
目 標	20,983	21,399	22,198	18,778	18,657	18,536																															
実 績	19,998	18,696	17,852	17,468	17,241	17,093																															
差	△985	△2,703	△4,346	△1,310	△1,416	△1,443																															
対 H24	△1,639	△2,941	△3,785	△4,169	△4,396	△4,544																															
4 新たな需要開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・保有水の解消 ・知事部局との連携による取組の推進 	<p>【需要開拓実績】※目標年 3,000 m³/日 (m³/日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>増量</td> <td>530</td> <td>1,600</td> <td>1,030</td> <td>0</td> <td>880</td> <td>6,670</td> <td>1,785</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>減量</th> <th>△200</th> <th>△8,600</th> <th>△70</th> <th>△50</th> <th>△15,600</th> <th>-</th> <th>4,087</th> </tr> </thead> </table>	区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均	増量	530	1,600	1,030	0	880	6,670	1,785	減量	△200	△8,600	△70	△50	△15,600	-	4,087											
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均																														
増量	530	1,600	1,030	0	880	6,670	1,785																														
減量	△200	△8,600	△70	△50	△15,600	-	4,087																														
5 工業用水の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> ・島田川分水事業の計画的な推進 	<p>【進捗率】 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>30</td> <td>50</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>30</td> <td>51</td> <td>76</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28	H29	H30	目標	30	50	80	実績	30	51	76																							
年度	H28	H29	H30																																		
目標	30	50	80																																		
実績	30	51	76																																		
6 危機管理体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化・耐震化対策の一体的な進行管理 	<p>【事業実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画</td> <td>63件</td> <td>52件</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>実施(着手)</td> <td>63件 (100%)</td> <td>52件 (100%)</td> <td>33件 (100%)</td> </tr> <tr> <td>完成</td> <td>46件 (73%)</td> <td>38件 (73%)</td> <td>22件 (67%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【管路延長】 (km)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>1.9</td> <td>2.3</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2.7</td> <td>2.9</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	H27	計画	63件	52件	33件	実施(着手)	63件 (100%)	52件 (100%)	33件 (100%)	完成	46件 (73%)	38件 (73%)	22件 (67%)	区分	H28	H29	H30	目標	1.9	2.3	2.5	実績	2.7	2.9	3.2							
区分	H25	H26	H27																																		
計画	63件	52件	33件																																		
実施(着手)	63件 (100%)	52件 (100%)	33件 (100%)																																		
完成	46件 (73%)	38件 (73%)	22件 (67%)																																		
区分	H28	H29	H30																																		
目標	1.9	2.3	2.5																																		
実績	2.7	2.9	3.2																																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時を想定した事故対応訓練の計画的な実施などによる危機管理体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本局・事業所合同訓練の実施 (事務所) 西部利水事務所 (時 期) 平成30年12月 (内 容) 地震対策訓練 ・訓練評価結果 21.56点(各評価項目 3.89～4.78点) 																																			

目 標 管 理 力 ー ド (工水①)

平成30年度

経営管理指標	安定した純利益の確保						
取組事項	低廉な料金の維持とコスト削減						
担当班	経営・技術企画班						
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・内部留保資金の活用による低廉な料金水準の維持 ・コスト削減(経費支出の効率化、支払利息減(企業債残高縮減)等) 						
主要目標	収支計画に基づく純利益の確保						
目標数値等	(単位:百万円)						
	区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	純利益	880	961	722	952	912	878
	※H28以降は、計画改定後の数値						
効 果	安定した経営基盤の確保						
年 度 別 進 行 状 況							
年度	取 組 内 容	取 組 実 績				効 果 効 果 額	
25	<ul style="list-style-type: none"> ・料金制度の見直し等 ・低廉な料金水準の維持 ・経費支出の効率化 ・支払利息縮減(企業債残高縮減) 	<ul style="list-style-type: none"> ・料金改定(1期系6事業) ・効率的な事業執行による修繕費等の維持管理経費の縮減、企業債残高縮減等による支払利息縮減 				収支計画以上の純利益の確保 純利益 1,406 百万円 (計画比+526 百万円)	
26	<ul style="list-style-type: none"> ・料金制度の見直し等 ・低廉な料金水準の維持 ・経費支出の効率化 ・支払利息縮減(企業債残高縮減) 	<ul style="list-style-type: none"> ・料金制度の見直し等 →二部料金移行(周南) ・料金改定(2期系6事業) ・効率的な事業執行による修繕費等の維持管理経費の縮減、企業債残高縮減等による支払利息縮減 				収支計画以上の純利益の確保 純利益 1,187 百万円 (計画比+226 百万円) ※会計制度見直し影響を除く	
27	<ul style="list-style-type: none"> ・料金制度の見直し等 ・低廉な料金水準の維持 ・経費支出の効率化 ・支払利息縮減(企業債残高縮減) 	<ul style="list-style-type: none"> ・料金制度の見直し等 →二部料金移行(岩国、厚東川、厚狭川) ・料金改定(周南2事業) ・効率的な事業執行による修繕費等の維持管理経費の縮減、企業債残高縮減等による支払利息縮減 				収支計画以上の純利益の確保 純利益 1,061 百万円 (計画比+339 百万円)	
28	<ul style="list-style-type: none"> ・低廉な料金水準の維持 ・経費支出の効率化 ・支払利息縮減(企業債残高縮減) 	<ul style="list-style-type: none"> ・料金改定(1期系6事業) ・効率的な事業執行による修繕費等の維持管理経費の縮減、企業債残高縮減等による支払利息縮減 				収支計画以上の純利益の確保 純利益 1,046 百万円 (計画比+94 百万円)	
29	<ul style="list-style-type: none"> ・低廉な料金水準の維持 ・経費支出の効率化 ・支払利息縮減(企業債残高縮減) 	<ul style="list-style-type: none"> ・料金改定(2期系6事業) ・効率的な事業執行による修繕費等の維持管理経費の縮減、企業債残高縮減等による支払利息縮減 				収支計画以上の純利益の確保 純利益 928 千円 (計画比+16 百万円)	
30	<ul style="list-style-type: none"> ・低廉な料金水準の維持 ・経費支出の効率化 ・支払利息縮減(企業債残高縮減) 	<ul style="list-style-type: none"> ・料金改定(周南2事業) ・効率的な事業執行による修繕費等の維持管理経費の縮減、企業債残高縮減等による支払利息縮減 				収支計画の純利益を下回る 純利益 724 千円 (計画比-154 百万円)	

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

- 料金改定（周南2事業）
- 企業債新規発行抑制等による支払利息縮減

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項目	計画	実績	差異
料金改定	周南2事業	利水協と妥結	計画どおり
支払利息縮減	267百万円	190百万円	77百万円
自主節水減免	110百万円	236百万円	△126百万円
二部料金減収	47百万円	71百万円	△24百万円
純利益の確保	878百万円	724百万円	計画を下回る (-154百万円)

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
評価	A	A	A	A	B	C	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 企業債借入れの抑制や利率見直しによる支払利息の縮減（計画比 77 百万円）は進んだが、自主節水減免の増加（計画比 126 百万円減免額増）や二部料金減収（計画比 24 百万円減収）により給水収益が減少したことから、純利益は 724 百万円と計画の 878 百万円を約 18% 下回った。
- なお、自主節水減免については、計画期間全体では、計画額 660 百万円に対して、実績額 432 百万円となっている。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

- 低廉な料金を維持しつつ、将来の更新需要等に備え長期的な経営の安定が図られるよう、一定の利益の確保が必要。
- 料金について、令和元年度改定作業を行う 1 期系 6 事業は、第 4 次経営計画で定める方針（総括原価を基本としつつ、将来の更新需要等を織込み）により料金改定を進める。
- また、工業用水の安定供給体制を強化するため、島田川工業用水道建設事業や宇部・山陽小野田地区工業用水供給体制再構築事業、施設の老朽化・耐震化対策を推進していく必要があり、今後、建設改良費が増加することが見込まれることから、引き続き、コスト縮減等による利益や内部留保資金を有効に活用し、料金の低廉化を維持していく。
- 支出面では、計画的な投資や新技術導入等による工事コストの縮減や、企業債残高の増嵩の抑制に取り組む。

目 標 管 理 カ ー ド (工水②)

平成30年度

経営管理指標	経費支出の効率化
取組事項	計画的な投資と効率的な事業実施
担当班	工業用水班
取組方針	「施設整備10か年計画」に基づく計画的な投資に加え、新技術・新工法の導入や効率的な施工方法の採用等により、工事コストの縮減に努める。
主要目標	「施設整備10か年計画」の効率的な推進
目標数値等	工事コストの削減(5%以上)
効果	設備投資、維持管理費の縮減、安定経営の確保

年 度 別 進 行 状 況

年度	取組内容	取組実績	効果 効果額
25	工事コスト縮減	新技術の導入・施工方法の見直し等によるコスト縮減	コスト縮減 △71,762千円
26	工事コスト縮減	施工方法の見直しによるコスト縮減	コスト縮減 △56,771千円
27	工事コスト縮減	施工方法の見直しによるコスト縮減	コスト縮減 △72,256千円
28	工事コスト縮減	施工方法・機器仕様の見直し等によるコスト縮減	コスト縮減 △40,265千円
29	工事コスト縮減	施工方法・機器仕様の見直し等によるコスト縮減	コスト縮減 △98,372千円
30	工事コスト縮減	機器仕様の見直しによるコスト縮減	コスト縮減 △33,832千円

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

○ 施設整備10か年計画における工事コスト縮減

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項目	計画	実績	差異
コスト縮減	【主な取組】 [厚東川工業用水道事務所] 【対策前】 681,399 千円	・無停電電源装置に接続する各負荷の容量を精査し、装置容量を縮小した。 【対策後】 647,567 千円	Δ 33,832 千円 Δ 33,832 千円 【縮減額】 Δ 33,832 千円 【縮減率】 5.0%

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
評価	B	B	B	C	B	B	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

○ 機器仕様の見直しにより、ほぼ計画どおり約5%の工事コストを縮減することができた。（縮減額 33,832 千円、縮減率 5.0%）

4 課題及び問題点／今後の事業展開

- 引き続き、様々な視点から工事コストの縮減を図っていく。
- 事業費の大きい建設事業や大型改良工事において、新技術の導入の可能性の検討も含め、最適な工法の採用によりコスト縮減に努めていく。

目 標 管 理 力 ー ド (工水③)

平成30年度

経営管理指標	企業債残高の縮減														
取組事項	繰上償還の実施と新規企業債の発行抑制														
担当班	総務・予算班														
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度等を利用して、企業債の繰上償還を実施し、資本費の低減を図る。 ・ 利益や内部留保を活用して、新規企業債の発行抑制を図る。 														
主要目標	収支計画に基づく企業債残高の縮減														
目標数値等	(単位：百万円)														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">区 分</td> <td style="width: 10%;">H25</td> <td style="width: 10%;">H26</td> <td style="width: 10%;">H27</td> <td style="width: 10%;">H28</td> <td style="width: 10%;">H29</td> <td style="width: 10%;">H30</td> </tr> <tr> <td>企業債残高</td> <td>20,983</td> <td>21,399</td> <td>22,198</td> <td>18,778</td> <td>18,657</td> <td>18,536</td> </tr> </table>	区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	企業債残高	20,983	21,399	22,198	18,778	18,657	18,536
	区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30								
企業債残高	20,983	21,399	22,198	18,778	18,657	18,536									
※H28以降は計画改定後の数値															
効 果	経営基盤の強化、支払利息の減少に伴う料金低廉化														

年 度 別 進 行 状 況

年度	取組内容	取組実績	効 果
			効 果 額
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰上償還の実施 ・ 公的資金補償金免除繰上償還に係る国への要望 ・ 企業債の新規発行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する国への要望の実施 ・ 内部留保資金を活用し、企業債の新規発行を抑制 	・ 収支計画以上の企業債残高の縮減
			企業債残高 200 億円 (計画比△10 億円)
26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰上償還の実施 ・ 公的資金補償金免除繰上償還に係る国への要望 ・ 企業債の新規発行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する国への要望の実施 ・ 内部留保資金を活用し、企業債の新規発行を抑制 	・ 収支計画以上の企業債残高の縮減
			企業債残高 187 億円 (計画比△27 億円)
27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰上償還の実施 ・ 公的資金補償金免除繰上償還に係る国への要望 ・ 企業債の新規発行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する国への要望の実施 ・ 内部留保資金を活用し、企業債の新規発行を抑制 	・ 収支計画以上の企業債残高の縮減
			企業債残高 179 億円 (計画比△43 億円)
28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰上償還の実施 ・ 公的資金補償金免除繰上償還に係る国への要望 ・ 企業債の新規発行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する国への要望の実施 ・ 内部留保資金を活用し、企業債の新規発行を抑制 	・ 収支計画以上の企業債残高の縮減
			企業債残高 175 億円 (計画比△13 億円)
29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰上償還の実施 ・ 公的資金補償金免除繰上償還に係る国への要望 ・ 企業債の新規発行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する国への要望の実施 ・ 内部留保資金を活用し、企業債の新規発行を抑制 	・ 収支計画以上の企業債残高の縮減
			企業債残高 172 億円 (計画比△14 億円)
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰上償還の実施 ・ 公的資金補償金免除繰上償還に係る国への要望 ・ 企業債の新規発行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する国への要望の実施 ・ 内部留保資金を活用し、企業債の新規発行を抑制 	・ 収支計画以上の企業債残高の縮減
			企業債残高 171 億円 (計画比△14 億円)

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

- 公的資金補償金免除繰上償還制度に関する取組
- 企業債の新規発行抑制に向けた取組

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項 目	計 画		実 績		差 異	
繰上償還の実施	対象企業債の繰上償還の実施		公的資金補償金免除繰上償還制度は実施されず		繰上償還の実績なし	
公的資金補償金免除繰上償還制度に係る国への要望	公的資金補償金免除繰上償還制度に係る国への要望の実施		国に対し、公的資金補償金免除繰上償還制度の復活や地方債利率の条件緩和などを要望		計画どおり実施	
企業債残高の縮減	H29 末 18,657 百万円	H30 末 18,536 百万円	H29 末 17,241 百万円	H30 末 17,093 百万円	H29 末 △1,416 百万円	H30 末 △1,443 百万円

※「実績」欄の金額は決算見込額

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
評価	A	A	A	A	A	A	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 平成30年度も「公的資金補償金免除繰上償還制度」は実施されなかったことから、関係団体と連携して制度の復活や地方債利率の条件緩和などを国に要望した。
- 国庫補助金や内部留保資金等を活用し、新規の企業債発行を12.8億円（計画比△2千万円）に抑えた。※第3次経営計画（改定版）に掲げる企業債発行限度額（当該年度の償還額の9割）の範囲内。
- これまでの取組により、企業債残高は約171億円（計画比△約14億円）に縮減。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

- 公的資金補償金免除繰上償還制度は、平成26年度以降実施されていないため、制度の復活及び対象となる地方債の利率の条件緩和などについて、引き続き、関係団体と連携しながら国に対し要望していく。
- 今後の老朽化・耐震化対策の推進等により建設改良費の増加が見込まれるため、事業費の平準化や内部留保資金の活用等により、企業債の起債額を当該年度の償還額以内とすることで企業債残高の増嵩を抑制する。

目 標 管 理 力 ー ド (工水④)

平成30年度

経営管理指標	新たな需要開拓
取組事項	◇保有水の解消 ◇受水企業間の需給調整
担当班	経営・技術企画班
取組方針	○知事部局との連携強化(関係部局による需要開拓推進組織新設) ○企業誘致のインフラとしての競争力強化(新たな施策検討)
主要目標	新たな需要開拓(需給調整を除く)
目標数値等	年間3,000 m ³ /日
効果	収益の増加による安定経営の確保

年 度 別 進 行 状 況

年度	取組内容	取組実績	効果
			効果額
25	①新規受水企業の獲得 ②既受水企業の増量 ③関係部局との連携 ④新たな施策の検討	①新規受水企業給水決定 ②需要調査及び企業訪問 ③需要開拓実行委員会新設 ④引込管設置支援事業の創設	需要開拓量 530 m ³ /日
			9,283 千円
26	①需要開拓ツール作成 ②既受水企業の増量 ③関係部局との連携 ④新たな施策の検討	①「工水エリアマップ」等の作成 ②企業訪問 ③企業立地セミナーへの参画 ④工業用水戦略的需要開拓強化事業	1,600 m ³ /日
			28,543 千円
27	①関係部局との連携 ②既受水企業の増量 ③新たな施策の検討	①工業用水戦略的需要開拓強化事業 ②需要調査及び企業訪問 ③水処理設備等設置支援事業の創設等	1,030 m ³ /日
			13,403 千円
28	①関係部局との連携 ②料金低廉化対策の検討 ③新たな施策等の検討	①工業用水戦略的需要開拓強化事業 ②防府地区の給水体制の見直し ③工水受水設備設置支援事業の創設等	0 m ³ /日
			－ 千円
29	①関係部局との連携 ②未受水企業への需要開拓 ③新たな施策等の検討	①工業用水需要開拓強化事業 ②需要調査及び企業訪問	880 m ³ /日
			6,680 千円
30	①関係部局との連携 ②未受水企業への需要開拓 ③新規受水企業の獲得 ④既受水企業の増量 ⑤新たな施策の検討	①工業用水需要開拓強化事業 ②企業訪問	6,670 m ³ /日
			51,334 千円

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

- 本計画期間中、年間3,000 m³/日の需要を開拓
- 企業立地関係部局との連携強化
- 需要開拓のための新規施策の検討

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項目	計画	実績	差異
保有水の解消	年間3,000 m ³ /日の需要開拓	需要開拓6,670 m ³ /日	+3,670 m ³ /日
企業立地関係部局等との連携強化	需要開拓実行委員会 企業立地推進強化事業による企業立地の促進を通じた工業用水の需要の確保	実行委員会の開催 企業立地フォーラムの開催、「希望の女神」のコンセプトによる情報発信、事業用地の発掘、県外受水企業へのアプローチ	
県内未受水企業を対象とした需要開拓の取組強化	工業用水需要開拓強化事業による企業局独自の取組の強化	配水管周辺の未受水企業への企業訪問、テレビCMや山口宇部空港でのPR動画の配信、需要開拓パンフレットの作成	
新規施策の検討	需要開拓プロジェクトチーム等による検討		

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
評価	C	B	B	C	C	A	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 平成30年度は、需要開拓の数値目標を達成することができた。中でも給水体制の見直しを行った防府地区で6,500 m³/日の増量があるなど需要開拓に係る事業効果は着実に得られていると考えられる。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

【課題及び問題点】

- 用水型企業の誘致
- 県内未受水企業の新規受水

【今後の事業展開】

- 県内未受水企業を対象とした需要開拓の取組強化
- 企業誘致活動を通じた工業用水の需要確保

目 標 管 理 カ ー ド (工水⑤)

平成30年度

経営管理指標	工業用水の安定供給		
取組事項	島田川分水事業の推進		
担当班	工業用水班		
取組方針	島田川分水事業の進行管理		
主要目標	企業ニーズに対応した新たな水資源の確保		
目標数値等	島田川分水事業の進捗率 (H28:30%、H29:50%、H30:80%)		
効果	周南地区に対して新たに日量14,100m ³ の工業用水を供給		
年 度 別 進 行 状 況			
年度	取組内容	取組実績	効果 効果額
25	—	—	千円
26	—	—	千円
27	—	—	千円
28	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施 (四半期毎の進捗管理)	進捗率30% 千円
29	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施 (四半期毎の進捗管理)	進捗率51% 千円
30	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施 (四半期毎の進捗管理)	進捗率76% 千円

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

平成30年度 島田川工業用水道建設事業
○ 導水トンネル工事 全体延長約1.7km（平成28～令和元年度（H30繰））
○ 導水管布設工事 第6～7工区 総延長約0.5km
○ ポンプ場建築工事 1式

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項 目	計 画	実 績	差 異
島田川分水事業の進捗	平成30年度末 進捗率 80%	平成30年度末 進捗率 76%	ほぼ計画どおり

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
評価	—	—	—	B	B	B

A・・・計画を上回る
 B・・・ほぼ計画どおり
 C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 国庫補助事業の採択など、財源の確保及び適切な進行管理に努めた結果、進捗率はほぼ計画どおり76%となった。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

○ 令和2年3月の給水開始に向け、計画どおり工事を進めるため、適切な進行管理に努める。

目 標 管 理 力 ー ド (工水⑥)

平成30年度

経営管理指標	危機管理体制の確保
取組事項	工業用水道施設の老朽化・耐震化対策
担当班	工業用水班
取組方針	施設整備10か年計画の進行管理
主要目標	老朽化・耐震化対策の推進
目標数値等	H25-27:計画的、重点的な施設整備(事業実施率、完成率) H28-30:重要度・健全度により優先的に更新を要する工業用水道管路(全体延長8km)の更新整備延長 H28:1.9km、H29:2.3km、H30:2.5km
効果	設備投資・維持管理費の縮減

年 度 別 進 行 状 況

年度	取組内容	取組実績	効果
			効果額
25	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施(四半期毎の進捗管理)	実施率100% 完成率73% — 千円
26	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施(四半期毎の進捗管理)	実施率100% 完成率73% — 千円
27	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施(四半期毎の進捗管理)	実施率100% 完成率67% — 千円
28	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施(四半期毎の進捗管理)	管路整備延長2.7km — 千円
29	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施(四半期毎の進捗管理)	管路整備延長2.9km — 千円
30	計画的な事業実施	・適切な進行管理の実施(四半期毎の進捗管理)	管路整備延長3.2km — 千円

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

【平成30年度主要事業】

- 厚東川第2期・厚狭川工業用水道改築事業
 …2期ルートバイパス管布設工事 全2工区 全体延長約0.3km
- 厚東川工業用水道改良事業 …厚東川水路橋改築工事
- 木屋川工業用水道二条化事業 …送水トンネル工事

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項 目	計 画	実 績	差 異
優先的に更新を要する工業用水道管路の累計整備延長	平成30年度末 整備延長 2.5km	平成30年度末 整備延長 3.2km	達成率 128%
計画的な施設整備	厚東川工業水道改良事業（水路橋改築工事） 木屋川工業用水道二条化事業（送水トンネル工事）	計画どおりに実施 計画どおりに実施	

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
評価	B	B	B	A	A	A	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 平成30年度は、厚東川第2期・厚狭川工業用水道改築事業を実施した結果、累計整備延長は、計画を上回る3.2kmとなった。
- また、管路以外の施設整備についても、「施設整備10か年計画」に基づき、概ね計画どおり実施した。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

- 優先的に更新を要する工業用水道8kmについて、老朽化・耐震化対策を着実に実施するため、今後も国庫補助金の着実な予算措置を国に対して要望するとともに、「施設整備10か年計画」に基づき、工業用水道施設の老朽化・耐震化対策の適切な進行管理に努める。

目標管理カード（工水⑦）

平成30年度

経営管理指標	危機管理体制の確保		
取組事項	緊急時対応力の向上		
担当班	調整・管財班		
取組方針	非常時を想定した事故対応訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化を図る。		
主要目標	本局・事業所合同訓練の実施		
目標数値等	電気・工業用水合わせて年1回		
効果	災害や事故発生等の緊急時において、迅速かつ適切に対応することにより、電気及び工業用水の安定供給体制を確保する。		
年度別進行状況			
年度	取組内容	取組実績	効果
			効果額
25	漏水事故対策訓練 (厚東川工水)	漏水事故対策訓練の実施 (厚東川工水)	危機管理体制の確保 — 千円
26	有害物質混入対策訓練 (周南工水、東部発電)	有害物質混入対策訓練の実施 (周南工水、東部発電)	危機管理体制の確保 — 千円
27	地震対策訓練 (小瀬川工水)	地震対策訓練の実施(小瀬川工水) ※第三者評価導入	危機管理体制の確保 — 千円
28	有害物質混入対策訓練 (佐波川工水)	(徳山導水路事故対応のため 中止)	危機管理体制の確保 — 千円
29	地震対策訓練(図上訓練) (佐波川工水)	地震対策訓練(図上訓練)の実施 (佐波川工水)	危機管理体制の確保 — 千円
30	地震対策訓練(図上及び実働訓練) (西部利水)	地震対策訓練(図上及び実働訓練)の実施 (西部利水)	危機管理体制の確保 — 千円

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

平成30年度本局・事業所合同訓練

(1) 実施事業所 西部利水事務所

(2) 実施時期 平成30年12月

(3) 訓練概要 地震対策訓練

想定) 周防灘で発生した地震により、木屋川第二期工業用水道管路において漏水が発生

内容) 初動体制の早期の確立と必要な対応(情報収集・伝達(衛星回線)、応急措置等)を図上訓練及び実働訓練により実施

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項目	計画	実績	差異
事故対応訓練の実施	工業用水道事業で年1回の訓練実施	訓練実施 (西部利水事務所)	計画どおり
	第三者評価の導入	第三者評価の実施 評価者：(株)ブリヂストン・ 下関市上下水道局・県防災危機管理課	計画どおり

3 事業評価

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
評価	B	B	B	C	B	B	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 昨年度に引き続き図上訓練を実施するとともに、実際の災害復旧手順の確認のための実働訓練を実施した。
- 昨年度の訓練では、評価者からは訓練内容が判りにくいとの意見があったことから、評価者に理解してもらえるよう工夫を行った結果、評価点数にも反映された（H29:17.67→H30:21.56）ものと思われる。

<訓練評価結果>

評価項目	訓練全般	訓練体制	情報伝達	点検・作業	連携	計
平均点数	4.22	4.78	3.89	4.78	3.89	21.56
						B 評価

（評価方法）

各項目について5段階評価（最高5点 合計25点満点）

（評価基準）

外部評価者3名、内部評価者（本局・事業所）6名の平均点数

A評価（良好） 合計20点以上かつ各項目全て4点以上

B評価（概ね良好） 合計15点以上かつ各項目全て3点以上

C評価（課題あり） 3点未満の項目あり

（主な意見）

- ・ 訓練想定工夫（状況付与等）
- ・ 本局訓練の内容の改善（本局独自想定訓練の実施等）

4 課題及び問題点／今後の事業展開

- 第4次経営計画に基づき、以下のとおり災害対応訓練を実施予定。
 - ・ 熊本地震や平成30年7月豪雨など、近年の大規模災害を踏まえた訓練の実施。
 - ・ より効果的な訓練とするため、訓練想定などの状況付与内容の検討
- 大規模災害発生時にも安定供給が確保できるよう防災対策の検証・検討を行い、各種マニュアルの修正等、随時見直しを行う。